

学生確保の見通し等を記載した書類 目次

(1) 新設組織の概要 ······	P2
①新設組織の概要 ······	P2
②新設組織の特色 ······	P2
(2) 人材需要の社会的な動向等 ······	P3
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析 ······	P3
②中期的な18歳人口等の入学対象人口の全国的、地域的動向の分析 ······	P3
③新設組織の主な学生募集地域 ······	P4
④既設組織の定員充足の状況 ······	P4
(3) 学生確保の見通し ······	P4
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 ······	P4
ア 既設組織における取組とその目標 ······	P4
イ 新設組織における取組とその目標 ······	P5
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 ···	P5
②競合校の状況分析 ······	P6
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性 ······	P6
イ 競合校の入学志願動向等 ······	P6
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等 ······	P7
エ 学生納付金等の金額設定の理由 ······	P7
③先行事例分析 ······	P7
④学生確保に関するアンケート調査 ······	P7
⑤人材需要に関するアンケート調査等 ······	P9
(4) 新設組織の定員設定の理由 ······	P10

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
一宮研伸大学大学院 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程			愛知県一宮市常願通五丁目 4番1
	6	12	
博士後期課程	2	6	

② 新設組織の特色

地域の健康課題や多様化する医療ニーズへの対応が要請されている現状において、地域特有の地域包括ケアシステムの構築をリードし、その人らしい充実した療養生活の支援には、教育・指導者として地域包括ケアや多職種連携・協働を担う実践能力や対象への深い理解を基盤に、科学的根拠に裏付けされた高度な看護実践力が必要とされ、かつ、その指導に当たる看護系大学教員のマンパワーが必要である。これらの能力を有する人材は大学院看護学研究科において育成するものと考える。さらに、本医療圏内に大学院教育を担う教育機関がない現状においては、大学院教育の担い手として本学に課せられた責務・役割は大きい。

本学は、平成29（2017）年度に一宮研伸大学看護学部を令和5（2023）年度に、一宮研伸大学大学院看護学研究科（修士課程）を開学し、看護の高等教育の一翼を担ってきており、本申請において、看護学研究科（博士後期課程）の設置を行うものである。

大学院設置に伴い、「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿（中央教育審議会大学分科会、2019年）」では、4つの人材養成機能として、①研究者養成、②高度専門職業人養成、③大学教員養成、④知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成が提示されている。本学の看護学研究科看護学専攻は、上記のうち②高度専門職業人養成及び③大学教員養成に焦点をあて、高度専門職業人として“地域の健康課題と多様化する医療ニーズに対応し、研究・教育能力を有する高度な看護実践者及び看護系大学教員の育成”を教育研究上の目的とする。

本学の育成する人材像を以下に示す。

【育成する人材像】

本学が設置する大学院看護学研究科は、地域社会なかでも尾張西部医療圏近隣の保健医療の現状をふまえ、21世紀の我が国における多様化する医療ニーズに対応できる以下のような人材を育成する。

ア 看護学専攻 博士前期課程

本研究科博士前期課程においては、人権尊重と擁護を根幹とした倫理観及び科学的根拠に裏付けされた看護学の幅広い知識と看護実践力を身に付け、リーダーシップ・マネジメント力及び研究・教育能力を有し、看護実践における課題の解決や看護学の発展に寄与するこ

とができる人材

イ 看護学専攻 博士後期課程

本研究科博士後期課程においては、看護教育・研究者として自立して研究活動に取り組み、変化し続ける地域社会のニーズに対応し包括的な看護方法を開発して、学際的かつ国際的視点を持って協働し地域社会の課題に創造的に応え、看護学の発展に寄与することができる人材

（2）人材需要の社会的な動向等

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

本学のある尾張西部医療圏（一宮市・稻沢市）においては、少子高齢化の進展とともに増加する認知症高齢者の療養生活を地域で支えるために、地域包括ケアシステムの構築に貢献することが重要な課題となっている。また、本医療圏における、がんによる死亡割合は全国平均・愛知県全体の平均を上まわっている。生活習慣病の重症化予防をはじめ、在宅での適切な医療を必要としている患者が増加している傾向にあり、これらに対応する医療従事者の資質の向上が求められている。また、看護系大学教員不足は著明であり、多くの私立大学においては、国公立大学を定年退職した教員の就任により体制を整えている現状にあり、教員の高齢化が進んでいる。つまり、本医療圏においては地域包括ケアシステムの構築をリードし、その人らしい療養生活の充実した支援には、看護職の能力向上や看護系大学教員の育成は喫緊の課題である。

また、愛知県地域保健医療計画（2024年3月公示）においても、「少子高齢化の更なる進行や医療の高度化、専門分化や在宅医療の多様化など、保健医療をとりまく環境が変化する中で、看護職員には、より高度な専門知識及び専門技術の習得が求められており、看護職員への継続教育の充実がますます重要となります。」「医療の高度化や在宅医療の推進、介護老人保健施設などの介護保険関係サービスのニーズの増加が予想されるため、より一層、看護職員の必要職員数を確保していく必要があります。」と示されており、地域における看護職員の課題となっている。

② 中期的な18歳人口等の入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

「リクルート進学総研 マーケットトレポート2023」（令和6年2月）によると、18歳人口推計値は2026年109.3万人から2035年97.1万人と10年間で12.2万人の約11.2%が減少すると推計されており、本学が立地する愛知県においては、2026年70,194人から2035年63,583人と6,611人の約9.4%が減少すると推計されている。

しかし、2023（令和5）年度の愛知県の大学進学率（現役）は59.9%、地元残留率は72.1%と高く、全国的に比べると18歳人口の減少率が緩やかであり、大学進学率、地元残留率が高いいため、本学においては地元と連携した密接した看護学分野の特性を生かすことにより、大学の入学者確保は可能と判断する。

【資料 1：リクルート進学総研 マーケットレポート 2023-18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版】

③ 新設組織の主な学生募集地域

本学看護学研究科（修士課程）の在学生の居住地については愛知県内が 11 名（91.7%）、愛知県外が 1 名（8.3%）であり、引き続き博士前期課程および新設する博士後期課程においても主な学生募集地域は、本学が所在する愛知県である。

【資料 2：新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）】

④ 既設組織の定員充足の状況

別紙 2 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）に示すとおり、入学定員 80 名である看護学部看護学科の直近 5 年間の志願者数平均は 378 名、入学者平均 88 名、入学定員充足率平均は 1.10 倍と堅調に推移しており、今後も入学定員の確保は十分に可能であると判断する。

【資料 3：既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2）】

また、【表 1】に看護学研究科看護学専攻（修士課程）の入学者の状況（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数）を示す。

本研究科修士課程は 2023（令和 5）年度に開設し、入学者の確保については堅調に推移おり、今後も入学定員の確保は十分に可能であると判断する。

表 1 看護学研究科看護学専攻（修士課程）の入学者の状況

区分	対象年度 令和 5 年度	令和 6 年度
入学定員	6	6
志願者数	7	6
受験者数	7	6
合格者数	7	6
入学者数	6	6

（3）学生確保の見通し

① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

大学院における既設組織の取組については、修士課程の開設前年度の令和 4 年度より、愛知県内の総合病院を中心に岐阜県の病院にも、毎年度大学院の入学説明会のチラシを送付している。

さらに、愛知県及び岐阜県内の大学、看護専門学校にも入学説明会のチラシを送付している。

なお、本学園の愛知きわみ看護短期大学の卒業生及び一宮研伸大学の卒業生全員にメールで大学院の紹介を配信している。その効果として、毎年度、卒業生が入学している。引き続き、愛知きわみ看護大学の卒業生及び一宮研伸大学の卒業生全員にメールで大学院の紹介を配信して学生確保に努める。

また、現在在学している大学院生は、全員社会人学生であるが、病院等の管理者でもあり、口伝いで大学院のPRを行っており、入学までに至っている。

本学の看護学部の基幹実習病院である、社会医療法人大雄会病院とは、3か月に1回病院・大学連絡協議会を行っており、大学からの参加者は、学長、学部長はじめ大学管理者、病院からの参加者は、理事長、病院長はじめ看護部長等病院管理者が参加して、積極的に大学院のPRをしていただき、毎年病院からの入学者がいることから、引き続き、PRのお願いを行い学生確保に努める。

さらに、この西尾張地域には、総合病院が多く大学院を設置している大学が本学だけであり、学生確保には有利な地域であるため、積極的にPRを行い学生確保に努めたい。

特に、本学に入学してくる修士課程の学生は、上述しているとおり社会人が多いため長期履修制度を設けている。長期履修の申請は1年次の2月に申請が可能であり、就業継続を断念せず両立させることを支援している。

【資料4：既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）】

イ 新設組織における取組とその目標

現在在籍している修士課程の学生の中には、博士後期課程への進学希望者がほぼ全員であることから、在学生に積極的にPRを行っている。

また、社会医療法人大雄会病院との病院・大学連絡協議会においても、博士前期課程と同様、新設する博士後期課程の周知、PRを行っている。

なお、本年度から一宮研伸大学附属看護地域創成研修センター主催の看護管理セミナーを年4回開催しており、参加者は地域の総合病院勤務の看護師で毎回40名ほどであり積極的にPRを行っている。

また、臨地実習指導者講習会も令和6年度より実施しており、21名の参加者があり、積極的にPRを行っている。

目標値については、毎年度2名の定員を充足するよう学生確保に努める。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

修士課程在学の学生アンケートの結果を見ても、博士課程進学希望者はほぼ全員が進学を希望しており、また、上記で説明した新設する博士後期課程の周知、PRを実施

することで、毎年度 2 名の学生確保は可能であると判断する。

② 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

現在、愛知県の私立大学で博士後期課程を設置している大学は以下の 3 校であり、3 校とも競合校と考えている。

表 2 競合校

No	大学院名		入学定員	場所
1	藤田医科大学 大学院	保健学研究科保健学専攻 (修士課程)	25 名	愛知県豊明市
		保健学研究科保健学専攻 (博士後期課程)	6 名	
2	日本赤十字豊田 看護大学大学院	看護学研究科共同看護学 専攻 (修士課程)	10 名	愛知県豊田市
		看護学研究科共同看護学 専攻 (博士後期課程)	2 名 (構成大学 全体 10 名)	
3	人間環境大学 大学院	看護学研究科看護学専攻 (博士前期課程)	20 名	愛知県大府市
		看護学研究科看護学専攻 (博士後期課程)	8 名	

なお、西尾張地域には、看護学部を設置している大学は本学を含め 2 校であるが、大学院を開設している大学は本学のみで、地域には総合病院が多いことから社会人学生の確保はもとより修士課程修了者の入学に関しても、他大学と比較してもかなり優位であると考える。

また、近隣の岐阜県の私立大学では、博士後期課程を開設している大学は現在のところ無いため、JR 岐阜駅・名鉄岐阜駅から尾張一宮駅・名鉄一宮駅まで約 10 分であり、他大学と比較してもかなり優位であると考える。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校の在学者数及び過去 3 年間の入学志願動向は資料 5 のとおりである。藤田医科大学大学院は安定して定員充足をしており、日本赤十字豊田看護大学大学院は入学者数としては定員割れとなっているが収容定員は充足している。また、人間環境大学大学院は入学・収容定員と定員割れとなっている状況である。

【資料 5：競合校の在学者数・入学志願動向】

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校の日本赤十字豊田看護大学大学院、人間環境大学大学院が定員未充足となっているが、毎年一定数の入学者はおり、本学においては博士前期課程の入学定員 6 名、博士後期課程の入学定員を 2 名と比較して少ない人数を設定していることから、定員を充足できると考える。

修士課程（博士前期課程）については、令和 5 年度から開設しており、毎年入学定員を充足している。令和 7 年度においても入学定員を充足できる見込みとなっている。

新設する博士後期課程については、後述する入学意向に関するアンケート調査の結果を見ても、修士課程の在学生全員の 12 名が進学を希望しており、入学定員を十分に充足できると考えている。

また、前述のとおり、西尾張地域には大学院を設置している大学は本学のみであることから、競合校は尾張東部地域及び知多地域であり、学生の確保は競合校と比較して地理的にもかなり優位であると考える。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本研究科看護学専攻の学生納付金及び競合校の学納金を資料 6 に示す。

本研究科看護学専攻（博士前期課程）の初年度学納金は、競合校の平均を上回る設定ではあるが、初年度納付金の設定範囲（900,000 円から 1,200,000 円）内にあること、本学看護学部の初年度納付金（168 万円）との整合性も鑑み、設定している。

また、博士後期課程の学納金については、本学看護学部、博士前期課程との整合性も鑑み設定し、且つ競合校との初年度納付金の設定範囲（900,000 円から 1,500,000 円）と比較しても、最も安い金額設定としている。

なお、本学看護学研究科修士課程修了生については、入学金を免除することで進学を希望する学生の経済的負担を軽減することに繋がり、本学博士後期課程への進学を推進するものと考える。

また、大雄会一宮高等看護専門学校、愛知きわみ看護短期大学及び本学の卒業生・修了生が博士後期課程に入学する場合は、入学金は全額免除とする。

【資料 6：競合校の学納金一覧】

③ 先行事例分析

既設組織を廃止して新設組織を設置する場合には当たらないため、当項目の記載はなし。

④ 学生確保に関するアンケート調査

一宮研伸大学大学院が 2026（令和 8）年度に設置構想中の「看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）」における「入学意向に関するアンケート調査」を、本研究科博士後期課程に最も進学が見込まれる本研究科修士課程の在籍者を調査対象として実施した。

**【資料 7：一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）
入学意向に関するアンケート調査結果】**

表3 入学意向に関するアンケート調査の概要

調査名	一宮研伸大学大学院 看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）（仮称） 入学意向に関するアンケート調査
調査対象	一宮研伸大学大学院 看護学研究科看護学専攻（修士課程）に 在籍する大学院生 12 名（1 年次生 6 名、2 年次生 6 名）
調査方法	自記式アンケート調査、回収箱での収集
調査内容	全 9 問で選択肢式
調査期間	2024（令和6）年12月
回答数	12 件（回収率：100%）

以下に、入学意向に関するアンケート調査の結果を記す。

表4 入学意向に関するアンケート調査の結果

回答者数 (合計)	問4 修了後の 進路	問5 進学希望の 大学設置者	問6 興味のある 学問分野	問7 新設組織の 受験希望 有無	問8 合格した場 合の入学 希望有無	問9 入学希望 時期
12 名	うち、 ①博士後期 課程に進学 12 名 (100%)	うち、 ①私立 12 名 (100%)	うち、 ①看護学 12 名 (100%)	うち、 ①第一志望 として受験 する 11 名 (91.7%) ②第二志望 として受験 する 1 名 (8.3%)	うち、 ①入学する 11 名 (91.7%) ②入学する 1 名 (8.3%)	うち、 ①2026 年 4 月 4 名 (33.3%) ②2027 年 4 月 3 名 (25.0%) ③2028 年 4 月 以降 4 名 (33.3%) ①2026 年 4 月 1 名 (8.3%)

入学意向に関するアンケート調査の結果、一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻（修士課程）に在籍する大学院生 12 名全員が博士後期課程の進学を希望しており、本研究科の博士後期課程へは、11 名が第一志望として受験し、入学するとの回答であり、1 名も第二志望として受験するとの回答が得られた。

また、第一志望とした 11 名の入学希望時期においては、開設予定の 2026（令和 8）年 4 月が 4 名、2027（令和 9）年 4 月が 3 名、2028（令和 10）年 4 月以降が 4 名となり、中長期的な定員充足を後押しする結果が得られた。

上記の結果より、2026（令和8）年4月に設置構想中である一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程の学生確保の見通しは、予定する入学定員2名を上回る回答が得られたため、入学定員の確保は十分に可能であると判断する。また、中長期的においても入学定員の確保は十分に可能であると判断する。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

一宮研伸大学大学院が2026（令和8）年度に設置構想中の「看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）」における「採用意向に関するアンケート調査」を実施した。

【資料8：一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称） 採用意向に関するアンケート調査結果】

表5 採用意向についてのアンケート調査の概要

調査名	一宮研伸大学大学院 看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）（仮称） 採用意向についてのアンケート調査
調査対象	本学看護学部の臨地実習施設を中心に、機関・施設の管理責任者等（合計12件）
調査方法	自記式アンケート調査による回収
調査内容	全6問で選択肢式
調査期間	2024（令和6）年12月
回答数	12件（回収率：100%）

以下に、採用意向についてのアンケート調査の結果を記す。

表6 採用意向についてのアンケート調査の結果

回答件数（合計）	問5 採用意向	問6 採用可能人数
12件	うち、 ①採用したい 8件（66.7%）	うち、 ①1人 1件（8.3%） ②2人以上 7件（58.3%）
	②採用を検討したい 3件（25.0%）	①1人 1件（8.3%） ②2人以上 2件（16.7%）

採用意向についてのアンケート調査の結果、回答のあった 12 施設のうち本研究科の博士後期課程修了生を「採用したい」との回答が 8 施設、「採用を検討したい」との回答が 3 施設から得られた。また、採用可能な人数については、「採用したい」と回答した施設では 15 人、「採用を検討したい」と回答した施設では 5 人となった。

上記の結果より、病院・診療所等からは採用の意向があることが明確になり、2026（令和 8）年 4 月に設置構想中である一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程修了後の進路については、人材需要があることが確認できた。

以上より、看護における研究・教育能力、さらに高度の専門性を有する看護実践者としての社会からの人材需要は大きいと考える。

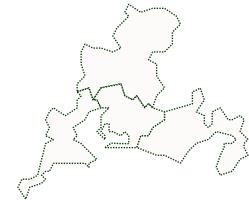
（4）新設組織の定員設定の理由

基礎となる修士課程の入学定員の状況や入学者の学力を担保することを考慮し、また、本研究科のカリキュラム体系から必要とする教員数や施設・設備などの学修環境、学費の設定に伴う収支シミュレーション等を行い、財務上も問題がないことを確認したうえで、「4. 学生確保に関するアンケート調査」の結果より、一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程の入学定員 2 名の確保は中長期的においても十分に可能であると判断した。

学生確保の見通し等を記載した書類（資料） 目次

資料 1	リクルート進学総研 マーケットレポート 2023-18 歳人口予測、大学・短期大学・専門学校進学率、地元残留率の動向 東海版 · · · · ·	P2
資料 2	新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1） · · · · ·	P8
資料 3	既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2） · · · · ·	P9
資料 4	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3） · · · · ·	P10
資料 5	競合校の在学者数・入学志願動向 · · · · ·	P11
資料 6	競合校の学納金一覧 · · · · ·	P12
資料 7	一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）入学意向に関するアンケート調査結果 · · · · ·	P13
資料 8	一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）採用意向に関するアンケート調査結果) · · · · ·	P16

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 **東海版** - 岐阜県・静岡県・愛知県・三重県 -



【将来予測 2023~2035年】

▶ 18歳人口予測 P2~P4

- ・2023年138,309人→2035年119,690人（18,619人減少）
- ・減少率が高いのは、静岡県（2023年比較18.4%減少）
- ・減少数が多いのは、愛知県（2023年69,766人→2035年63,583人、6,183人減少）

【経過推移 2014~2023年】

▶ 進学者数・進学率（現役）の推移 P5~P10

進学者数

- ・大学は、2014年63,790人→2023年67,740人（3,950人増加）と、6.2%増加
- ・短期大学は、2014年7,034人→2023年3,970人（3,064人減少）と、43.6%減少
- ・専門学校は、2014年18,612人→2023年17,365人（1,247人減少）と、6.7%減少

進学率（現役）

- ・大学は、2014年50.1%→2023年56.6%（6.5ポイント上昇）
- ・短期大学は、2014年5.5%→2023年3.3%（2.2ポイント低下）
- ・専門学校は、2014年14.6%→2023年14.5%（0.1ポイント低下）

▶ 地元残留率の推移 P11~P13

- ・大学は、2014年48.0%→2023年50.2%（2.2ポイント上昇）
- ・短期大学は、2014年75.6%→2023年76.7%（1.1ポイント上昇）

▶ 東海エリア概要（全体：県別） P14~P15

■ 分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口 = 3年前の中学校卒業者及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業者数
 - ・ 中学校卒業者数 = 高校生 + フリーター + 就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業者数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程）。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- ⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※）） ÷ 高等学校卒業者数（全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程）で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- ⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

※専門学校 = 専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】

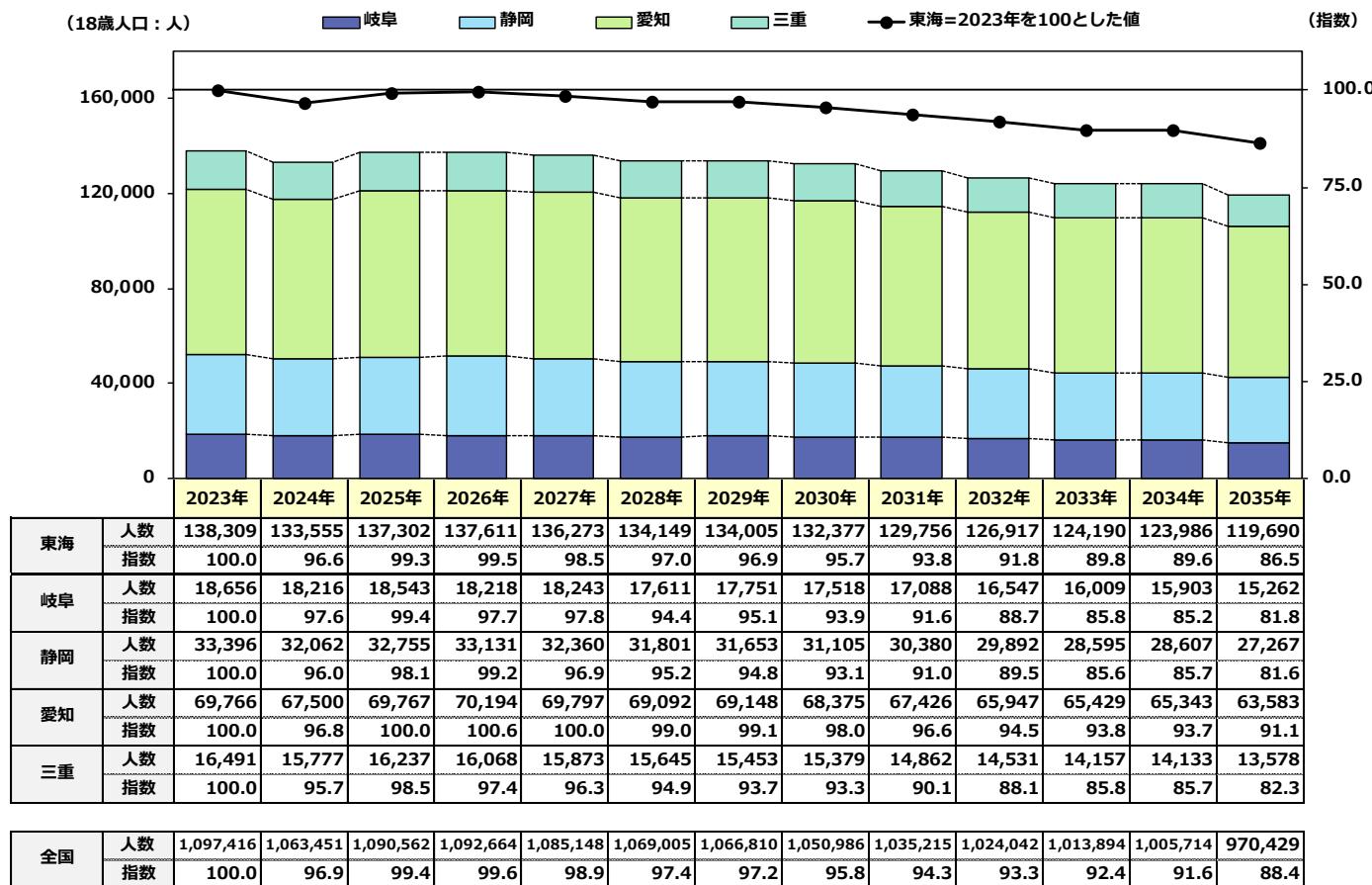
株式会社リクルート リクルート進学総研 <https://souken.shingakunet.com/>

※データ等を引用される場合は出典（「リクルート進学総研」）を明記いただきますようお願いいたします。

18歳人口予測（全体：東海：2023～2035年）

■ 2023年138,309人→2035年119,690人（18,619人減少）

- ・東海エリアは18,619人・13.5%減少し、全国の減少率11.6%を1.9ポイント上回る。
- ・2024年に133,555人まで減少するが、2026年に4,056人増加した後、2027年以降は減少が続く。
- ・減少率が高いのは、静岡県（2023年比較18.4%減少）。
- ・減少数が多いのは、愛知県（2023年69,766人→2035年63,583人、6,183人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：東海：2014～2023年）

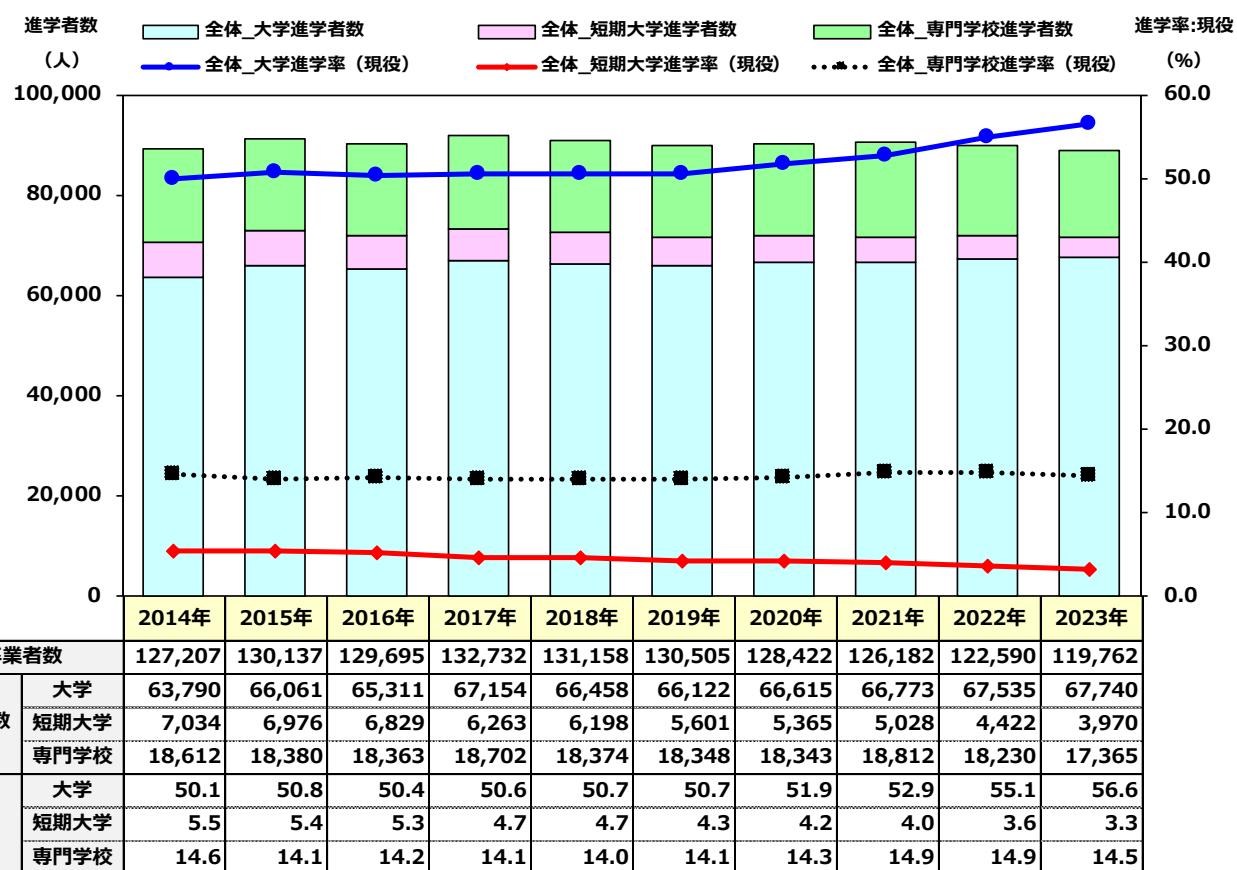
- 10年で大学進学率は6.5ポイント上昇、大学進学者数は3,950人増加
一方、短期大学進学率は2.2ポイント、専門学校進学率は0.1ポイント低下し、
進学者数もそれぞれ3,064人、1,247人減少

進学者数

- ・大学は、2014年63,790人→2023年67,740人（3,950人増加）と、6.2%増加。
- ・短期大学は、2014年7,034人→2023年3,970人（3,064人減少）と、43.6%減少。
- ・専門学校は、2014年18,612人→2023年17,365人（1,247人減少）と、6.7%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2014年50.1%→2023年56.6%（6.5ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2014年5.5%→2023年3.3%（2.2ポイント低下）。
- ・専門学校は、2014年14.6%→2023年14.5%（0.1ポイント低下）。



東海	卒業者数		東海地区の卒業者数と進学者数									
	大学	短期大学	専門学校	大学	短期大学	専門学校	大学	短期大学	専門学校	大学	短期大学	専門学校
	127,207	130,137	129,695	132,732	131,158	130,505	128,422	126,182	122,590	119,762		
	63,790	66,061	65,311	67,154	66,458	66,122	66,615	66,773	67,535	67,740		
	7,034	6,976	6,829	6,263	6,198	5,601	5,365	5,028	4,422	3,970		
	18,612	18,380	18,363	18,702	18,374	18,348	18,343	18,812	18,230	17,365		
	50.1	50.8	50.4	50.6	50.7	50.7	51.9	52.9	55.1	56.6		
	5.5	5.4	5.3	4.7	4.7	4.3	4.2	4.0	3.6	3.3		
	14.6	14.1	14.2	14.1	14.0	14.1	14.3	14.9	14.9	14.5		

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数 : 高等学校卒業した人数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）

・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学^生確^率教^科資^本日^制+中等教育学校後期課程

※専門学校 = 専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2014～2023年）

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
岐阜	卒業者数（人）	18,263	18,477	18,029	18,379	18,240	18,146	17,778	17,565	16,916	16,124
	進学者数（人）	8,656	8,899	8,534	8,959	8,868	8,980	8,900	9,081	9,021	8,879
	大学	1,471	1,453	1,405	1,316	1,248	1,045	1,076	972	971	795
	短期大学	2,641	2,556	2,406	2,419	2,466	2,396	2,417	2,489	2,481	2,402
	専門学校	47.4	48.2	47.3	48.7	48.6	49.5	50.1	51.7	53.3	55.1
	進学率（%）	8.1	7.9	7.8	7.2	6.8	5.8	6.1	5.5	5.7	4.9
	大学	14.5	13.8	13.3	13.2	13.5	13.2	13.6	14.2	14.7	14.9
	短期大学	15.314	15,922	15,521	15,941	15,744	15,481	15,759	15,687	15,786	15,982
	専門学校	5,450	5,296	5,388	5,640	5,584	5,539	5,260	5,435	5,081	4,740
静岡	卒業者数（人）	31,726	32,404	32,058	32,825	32,434	32,163	31,854	31,272	30,164	29,624
	進学者数（人）	1,499	1,499	1,462	1,401	1,382	1,224	1,211	1,137	994	962
	大学	48.3	49.1	48.4	48.6	48.5	48.1	49.5	50.2	52.3	53.9
	短期大学	4.7	4.6	4.6	4.3	4.3	3.8	3.8	3.6	3.3	3.2
	専門学校	17.2	16.3	16.8	17.2	17.2	17.2	16.5	17.4	16.8	16.0
	進学率（%）	53.2	53.7	53.7	53.4	53.7	53.8	55.0	56.1	58.5	59.9
	大学	5.1	4.9	4.8	4.2	4.2	4.0	3.7	3.4	3.0	2.6
	短期大学	13.3	13.1	12.9	12.6	12.4	12.6	13.3	13.9	13.8	13.5
	専門学校	32,662	34,005	34,161	34,870	34,791	34,687	34,901	34,927	35,631	35,801
愛知	卒業者数（人）	61,420	63,268	63,656	65,316	64,789	64,458	63,406	62,229	60,903	59,798
	進学者数（人）	3,144	3,085	3,064	2,733	2,746	2,569	2,349	2,130	1,798	1,569
	大学	3,144	3,085	3,064	2,733	2,746	2,569	2,349	2,130	1,798	1,569
	短期大学	8,171	8,273	8,195	8,212	8,045	8,119	8,410	8,645	8,428	8,048
	専門学校	53.2	53.7	53.7	53.4	53.7	53.8	55.0	56.1	58.5	59.9
	進学率（%）	5.1	4.9	4.8	4.2	4.2	4.0	3.7	3.4	3.0	2.6
	大学	13.3	13.1	12.9	12.6	12.4	12.6	13.3	13.9	13.8	13.5
	短期大学	14.9	14.1	14.9	15.0	14.5	14.6	14.7	14.8	15.3	15.3
	専門学校	15,798	15,988	15,952	16,212	15,695	15,738	15,384	15,116	14,607	14,216
三重	卒業者数（人）	7,158	7,235	7,095	7,384	7,055	6,974	7,055	7,078	7,097	7,078
	進学者数（人）	920	939	898	813	822	763	729	789	659	644
	大学	2,350	2,255	2,374	2,431	2,279	2,294	2,256	2,243	2,240	2,175
	短期大学	45.3	45.3	44.5	45.5	45.0	44.3	45.9	46.8	48.6	49.8
	専門学校	5.8	5.9	5.6	5.0	5.2	4.8	4.7	5.2	4.5	4.5
	進学率（%）	14.9	14.1	14.9	15.0	14.5	14.6	14.7	14.8	15.3	15.3
	大学	14.9	14.1	14.9	15.0	14.5	14.6	14.7	14.8	15.3	15.3
	短期大学	15.3	15.1	15.3	15.5	15.0	15.1	15.2	15.3	15.8	15.8
	専門学校	15.3	15.1	15.3	15.5	15.0	15.1	15.2	15.3	15.8	15.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業者数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校生懇親会資料総合集+定時制+中等教育学校後期課程

※専門学校 = 専修学校専門課程

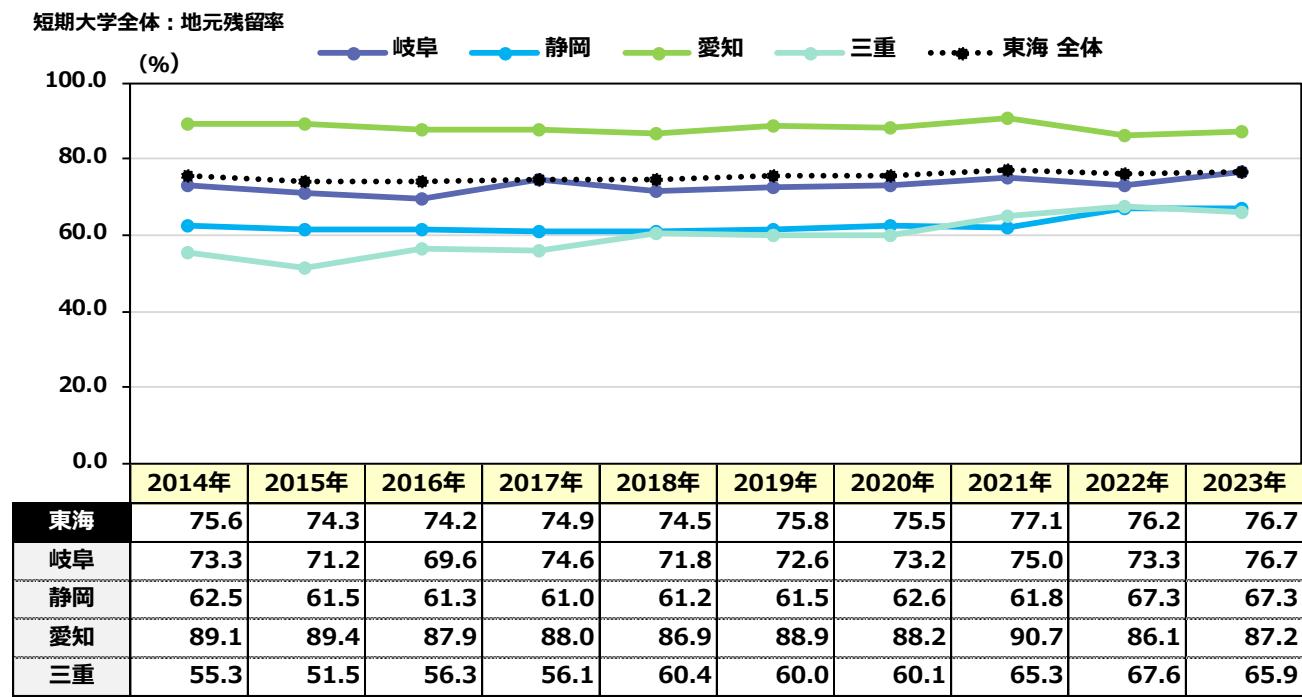
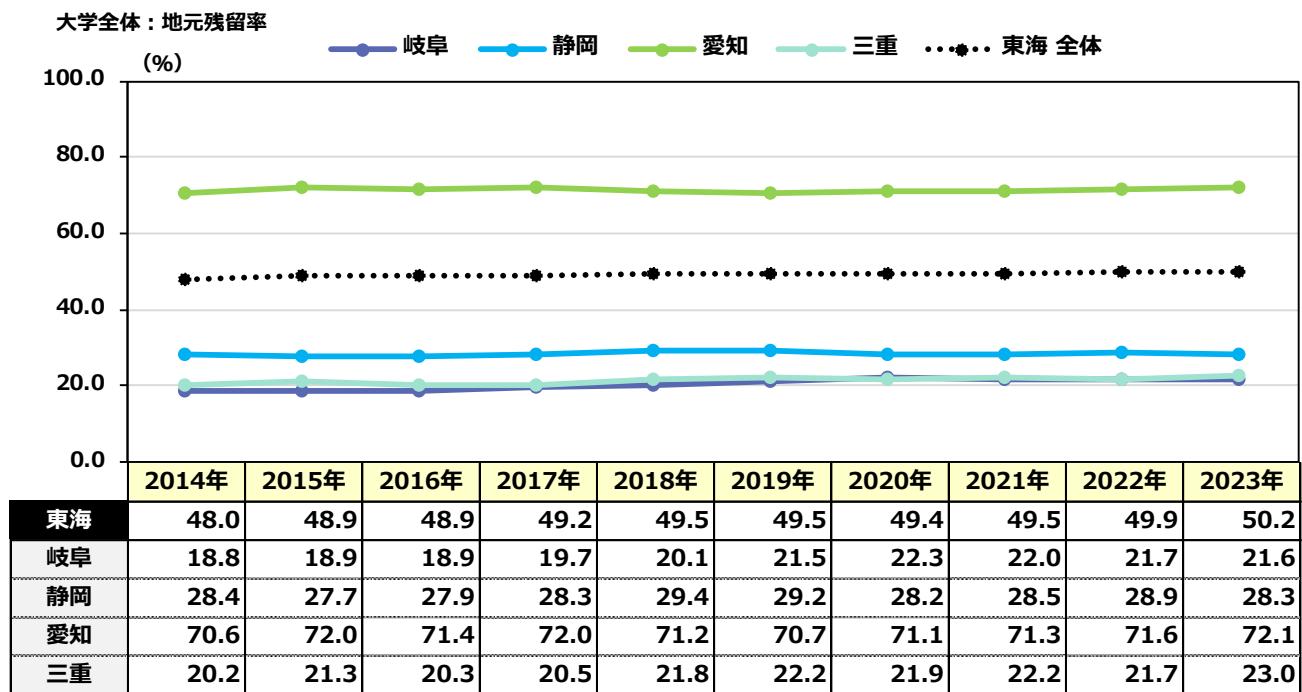
地元残留率の推移（全体：東海：2014～2023年）

■大学は、2014年48.0%→2023年50.2%（2.2ポイント上昇）

短期大学は、2014年75.6%→2023年76.7%（1.1ポイント上昇）

・大学で上昇率が高いのは、岐阜県（2014年18.8%→2023年21.6%）と三重県（同20.2%→同23.0%）で2.8ポイント上昇。

・短期大学で上昇率が高いのは、三重県（2014年55.3%→2023年65.9%、10.6ポイント上昇）。

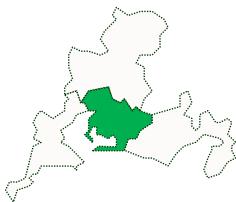


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

東海エリア概要（全体：県別）

愛知県



学校数

大学 : 52 (国立 4・公立 3・私立 45)
短期大学 : 18 (私立 18)
専門学校 : 156 (公立 13・私立 143)

卒業者数

2014年61,420人→2023年59,798人 (1,622人減少)

進学者数

大学 : 2014年32,662人→2023年35,801人 (3,139人増加)
短期大学 : 2014年 3,144人→2023年 1,569人 (1,575人減少)
専門学校 : 2014年 8,171人→2023年 8,048人 (-123人減少)

進学率（現役）

大学 : 2014年53.2%→2023年59.9% (6.7ポイント上昇)
短期大学 : 2014年 5.1%→2023年 2.6% (2.5ポイント低下)
専門学校 : 2014年13.3%→2023年13.5% (0.2ポイント上昇)

残留率

大学 : 2014年70.6%→2023年72.1% (1.5ポイント上昇)
短期大学 : 2014年89.1%→2023年87.2% (1.9ポイント低下)

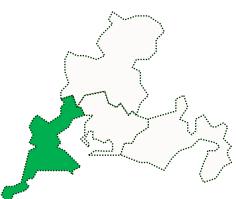
入学者流入元

※地元は除く
大学 : 1位岐阜 (4,549人)、2位三重 (2,754人)、3位静岡 (2,098人)
短期大学 : 1位岐阜 (-167人)、2位三重 (-124人)、3位静岡 (-83人)

入学者流出先

※地元は除く
大学 : 1位東京 (2,019人)、2位京都 (1,255人)、3位岐阜 (1,221人)
短期大学 : 1位岐阜 (-110人)、2位東京 (-30人)、3位三重 (-27人)

三重県



学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 1・私立 5)
短期大学 : 4 (公立 1・私立 3)
専門学校 : 36 (公立 3・私立 33)

卒業者数

2014年15,798人→2023年14,216人 (1,582人減少)

進学者数

大学 : 2014年7,158人→2023年7,078人 (-80人減少)
短期大学 : 2014年 920人→2023年 644人 (276人減少)
専門学校 : 2014年2,350人→2023年2,175人 (175人減少)

進学率（現役）

大学 : 2014年45.3%→2023年49.8% (4.5ポイント上昇)
短期大学 : 2014年 5.8%→2023年 4.5% (1.3ポイント低下)
専門学校 : 2014年14.9%→2023年15.3% (0.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2014年20.2%→2023年23.0% (2.8ポイント上昇)
短期大学 : 2014年55.3%→2023年65.9% (10.6ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く
大学 : 1位愛知 (602人)、2位岐阜 (99人)、3位静岡 (96人)
短期大学 : 1位愛知 (-27人)、2位京都 (13人)、3位和歌山 (11人)

入学者流出先

※地元は除く
大学 : 1位愛知 (2,754人)、2位大阪 (667人)、3位京都 (509人)
短期大学 : 1位愛知 (-124人)、2位大阪 (-49人)、3位奈良 (-27人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2023年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した人数 (全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校 (※) に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数 (大学・短期大学・専門学校 (※)) ÷ 高等学校卒業者数 (全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内 (地元) の大学・短期大学入学者数のうち自県内 (地元) の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合 (浪人含)
- ・流入 : 自県内 (地元) の大学・短期大学に入学したうち、自県以外 (地元以外) の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと (浪人含)
- ・流出 : 自県内 (地元) の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外 (地元以外) の大学・短期大学に入学したこと (浪人含)

-学生確保(資料)-7-

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	—	—	—
	全 体	—	—

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	—	—	—	—
2	—	—	—	—

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	保健系（大学院博士前期課程等）	82.38%	86.01%	86.14%
2	保健系（大学院博士後期課程等）	69.89%	76.34%	83.17%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）
大学学部学科等名：一宮研伸大学看護学部看護学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	平均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数 0人	受験者数 0人	合格者数 0人	0人	0人
		うち追加合格者数 0人		0人	0人	0人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	実人数	志願者数 0人	受験者数 0人	合格者数 0人	0人	0人
		うち追加合格者数 0人		0人	0人	0人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人
	募集人数	30人	30人	30人	30人	30人
	延べ人数	志願者数 72人	受験者数 72人	合格者数 64人	63人	90人
		うち追加合格者数 0人		0人	0人	95人
		辞退者数 8人		3人	1人	93人
	実人数	志願者数 72人	受験者数 72人	合格者数 64人	63人	73人
		うち追加合格者数 0人		0人	0人	73人
		辞退者数 8人		3人	1人	6人
	入学者数	47人	68人	59人	55人	56人
一般選抜	募集人数	45人	43人	43人	43人	43人
	延べ人数	志願者数 188人	受験者数 174人	合格者数 102人	225人	144人
		うち追加合格者数 17人		0人	4人	214人
		辞退者数 17人		6人	9人	198人
	実人数	志願者数 188人	受験者数 174人	合格者数 102人	127人	121人
		うち追加合格者数 17人		14人	0人	118人
		辞退者数 17人		6人	9人	7人
		志願者数 188人	受験者数 174人	合格者数 102人	127人	121人
		うち追加合格者数 17人		14人	0人	118人
		辞退者数 17人		6人	9人	7人
	入学者数	36人	28人	36人	30人	32人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	5人	5人	5人	4人
	延べ人数	志願者数 0人	受験者数 0人	合格者数 0人	128人	44人
		うち追加合格者数 0人		0人	31人	63人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	実人数	志願者数 0人	受験者数 0人	合格者数 0人	128人	44人
		うち追加合格者数 0人		0人	31人	63人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
		志願者数 0人	受験者数 0人	合格者数 0人	128人	44人
		うち追加合格者数 0人		0人	31人	63人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	1人	0人
その他特別選抜	募集人数	5人	2人	2人	2人	3人
	延べ人数	志願者数 1人	受験者数 1人	合格者数 0人	0人	1人
		うち追加合格者数 0人		0人	1人	1人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	実人数	志願者数 1人	受験者数 1人	合格者数 0人	0人	1人
		うち追加合格者数 0人		0人	1人	1人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
		志願者数 1人	受験者数 1人	合格者数 0人	0人	0人
		うち追加合格者数 0人		0人	0人	0人
		辞退者数 0人		0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	1人	0人	0人
合計	募集人数	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数 261人	受験者数 247人	合格者数 166人	536人	380人
		うち追加合格者数 17人		14人	359人	418人
		辞退者数 25人		16人	233人	418人
	実人数	志願者数 261人	受験者数 247人	合格者数 166人	536人	380人
		うち追加合格者数 17人		14人	359人	406人
		辞退者数 25人		16人	233人	406人
		志願者数 261人	受験者数 247人	合格者数 166人	536人	380人
		うち追加合格者数 17人		14人	359人	406人
		辞退者数 25人		16人	233人	406人
	入学者数	83人	96人	96人	86人	88人

3. 入学定員充足率

	R2年度入試	R3年度入試	R4年度入試	R5年度入試	R6年度入試	平均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.04	1.20	1.20	1.08	1.00	1.10
歩留率	0.45	0.41	0.41	0.33	0.33	0.39

令和3年度より、大学入学共通テスト導入。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：一宮研伸大学看護学部看護学科のオープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	312人	243人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、大学の特徴や要請する人材場の紹介、模擬授業、在学生との懇談、施設案内を実施。 令和5年度入試対象（令和4年開催）：計4回開催（7/23. 8/7. 8/27. 9/17） 令和6年度入試対象（令和5年開催）：計4回開催（6/24. 7/22. 8/6. 8/27）
うち受験対象者数 (b)	225人	160人	
うち受験者数 (c)	76人	70人	
うち入学者数 (d)	48人	43人	
(受験率 c/b)	33.8%	43.8%	②ここ数年間、オープンキャンパス参加者の受験者及び入学者の割合が安定していることから、40名以上の入学者が見込まれる。
(入学率 d/b)	21.3%	26.9%	

競合校の在学者数

令和6年度

No	大学名	研究科名等	入学定員	収容定員	入学者	在学者数
1	藤田医科大学大学院	保健学研究科保健学専攻(修士課程)	25	75	31	98
		保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)	6	22	8	49
2	日本赤十字豊田看護大学大学院	看護学研究科共同看護学専攻(修士課程)	10	20	7	21
		看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)	2	6	3	11
3	人間環境大学大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	20	40	8	16
		看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)	8	24	4	17

競合校の入学志願動向

No	大学名	研究科名等	令和4年度			令和5年度			令和6年度		
			志願者	合格者	入学者／入学定員	志願者	合格者	入学者／入学定員	志願者	合格者	入学者／入学定員
1	藤田医科大学大学院	保健学研究科保健学専攻(修士課程)	74	63	59／50	68	64	61／50	41	32	31／25
		保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)	19	14	14／8	16	16	16／8	8	8	8／6
2	日本赤十字豊田看護大学大学院	看護学研究科共同看護学専攻(修士課程)	9	9	9／10	4	4	4／10	7	7	7／10
		看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)	1	1	1／2	1	1	1／2	3	3	3／2
3	人間環境大学大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	—	—	9／20	—	—	8／20	—	—	8／20
		看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)	—	—	4／8	—	—	5／8	—	—	4／8

※藤田医科大学は、保健学研究科の博士後期課程には、保健学専攻と医療科学専攻があったが、2024年度から

保健学研究科保健学専攻のみとなった。

※岐阜県・三重県の私立大学は博士後期課程の設置はない。

競合校の学納金一覧

令和6年度

No	大学名	研究科名等	入学金	授業料	入学時学納金	修業年限の学納金
1	藤田医科大学大学院	保健学研究科保健学専攻(修士課程)	150,000	750,000	900,000	1,650,000
		保健学研究科保健学専攻(博士後期課程)	150,000	750,000	900,000	2,400,000
2	日本赤十字豊田看護大学大学院	看護学研究科共同看護学専攻(修士課程)	320,000	880,000	1,200,000	2,080,,000
		看護学研究科共同看護学専攻(博士後期課程)	400,000	1,100,000	1,500,000	3,700,000
3	人間環境大学大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	200,000	950,000	1,150,000	2,100,000
		看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)	200,000	950,000	1,150,000	3,050,000
4	一宮研伸大学大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	150,000	1,000,000	1,150,000	2,150,000
		看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)	100,000	800,000	900,000	2,500,000

**一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）
入学意向に関するアンケート調査結果**

1. 概要

調査対象	一宮研伸大学大学院 看護学研究科看護学専攻（修士課程）に在籍する大学院生12名 (1年次生6名、2年次生6名)
調査方法	自記式アンケート調査、回収箱での収集
調査内容	全9問で選択肢式
調査期間	2024（令和6）年12月
回答数	12件（回収率：100%）

II. 単純集計

問1. あなたのお住まいをお答えください。（単一回答）（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	尾張地区内	8	66.7%
2	愛知県内	3	25.0%
3	愛知県外	1	8.3%
	計	12	100.0%

問2. あなたの性別をお答えください。（単一回答）（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	男性	1	8.3%
2	女性	11	91.7%
3	回答しない	0	0.0%
	計	12	100.0%

問3. あなたの現在の学年についてお答えください。（単一回答）（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	看護学研究科修士課程 1年次生	6	8.3%
2	看護学研究科修士課程 2年次生	6	91.7%
	計	12	100.0%

問4. あなたは大学院（修士課程）修了後の進路をどのように考えていますか。（複数回答可）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	博士後期課程に進学	12	80.0%
2	就職（継続就業）	3	20.0%
3	その他	0	0.0%
	計	15	100.0%

※複数回答のため、回答数は延べ(n=15)。

問4で「博士後期課程に進学」を選択された方のみお答えください。

問5. 志望する大学院等の設置者を選択してください。（複数回答可）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	私立	12	100.0%
2	国立	0	0.0%
3	公立	0	0.0%
	計	12	100.0%

※複数回答のため、回答数は延べ(n=12)。

問6. 学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数回答可）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	看護学	12	100.0%
2	医学	0	0.0%
3	教育学	0	0.0%
4	心理学	0	0.0%
5	経済学	0	0.0%
6	経営学	0	0.0%
	計	12	100.0%

※複数回答のため、回答数は延べ(n=12)。

問7. 一宮研伸大学大学院「看護学研究科（博士後期課程）」（仮称）を受験したいと思いますか。
(単一回答) (あてはまるもの1つに○)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	第一志望として受験する	11	91.7%
2	第二志望として受験する	1	8.3%
3	第三志望以降として受験する	0	0.0%
4	受験しない	0	0.0%
	計	12	100.0%

問8. 一宮研伸大学大学院「看護学研究科（博士後期課程）」（仮称）を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（单一回答）（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学する	12	100.0%
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0	0.0%
3	入学しない	0	0.0%
	計	12	100.0%

問8で「1又は2の入学する」と回答された方にお尋ねします。

問9. 入学を希望する時期をお答えください。（单一回答）（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	2026年4月	5	41.7%
2	2027年4月	3	25.0%
3	2028年4月以降	4	33.3%
	計	12	100.0%

III. 入学意向についてのアンケート調査の結果（クロス集計）

表1 入学意向についてのアンケート調査の結果

回答者数 (合計)	問4 修了後の 進路	問5 進学希望 の大学設 置者	問6 興味のあ る学問分 野	問7 新設組織 の受験希 望有無	問8 合格した場 合の入学希 望有無	問9 入学希望時期
12名	うち、 ①博士後 期課程に 進学 12名 (100%)	うち、 ①私立 12名 (100%)	うち、 ①看護学 12名 (100%)	①第一志 望として 受験する 11名 (91.7%) ②第二志 望として 受験する 1名 (8.3%)	①入学す る 11名 (91.7%) ②入学す る 1名 (8.3%)	①2026年4月 4名 (33.3%) ②2027年4月 3名 (25.0%) ③2028年4月以降 4名 (33.3%) ①2026年4月 1名 (8.3%)

**一宮研伸大学大学院看護学研究科看護学専攻 博士後期課程（仮称）
採用意向に関するアンケート調査結果**

1. 概要

調査対象	本学看護学部の臨地実習施設を中心に、機関・施設の管理責任者等（合計12件）
調査方法	自記式アンケート調査による回収
調査内容	全6問で選択肢式
調査期間	2024（令和6）年12月
回答数	12件（回収率：100%）

II. 単純集計

問 1. 貴社・貴団体の種別についてお答えください。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	病院・診療所	10	83.3%
2	その他	2	16.7%
	計	12	100.0%

問 2. 貴社・貴団体の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	尾張地区内	8	66.7%
2	愛知県内	2	16.7%
3	愛知県外	1	8.3%
	無回答	1	8.3%
	計	12	100.0%

問 3. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員数）についてお答えください。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	300人未満	1	8.3%
2	300人以上	10	83.3%
	無回答	1	8.3%
	計	12	100.0%

問4. 2026年度に新設構想中の一宮研伸大学大学院「看護学研究科（博士後期課程）」（仮称）が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	ニーズは高い	8	66.7%
2	ニーズはある程度高い	4	33.3%
3	ニーズはあまりない	0	0.0%
4	ニーズはない	0	0.0%
	計	15	100.0%

問5. 一宮研伸大学大学院「看護学研究科（博士後期課程）」（仮称）を修了した学生を採用したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	8	66.7%
2	採用を検討したい	3	25.0%
3	採用しない	0	0.0%
	無回答	1	8.3%
	計	12	100.0%

問6は問5で「採用したい又は採用を検討したい」と回答したもののみが対象である。

問6. 単年度で採用可能と思われる人数は何人ですか。（あてはまるもの1つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1人	2	18.2%
2	2人以上	9	81.8%
	計	11	100.0%

問7. 2026年度に新設構想中の一宮研伸大学大学院「看護学研究科（博士後期課程）」（仮称）について、期待する点やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

番号	選択項目
1	遠方からでも無理なく就学できるような学習環境
2	今でも充分だと思っていますが、引きつづきこのままでお願いしたい
3	講義をハイブリッドでの授業を希望します
4	知識等豊富な看護師が増えることは、地域にとっても宝だと思います
5	修士で学んだことを引き続き学びを深めるために環境を整えて頂きたいと思います
6	看護学の発展のためには、深く学んだ人の知識は重要だと思う それを臨床に活かして欲しいと思う→看護の質が向上すると良いと思う 新人も学部卒が増えてくるので、上司になる人は学をつけた人が必要だと思う

III. 採用意向についてのアンケート調査の結果（クロス集計）

採用可能人数

- (1) 「採用したい」と回答した施設では15人
- (2) 「採用を検討したい」と回答した施設では5人

表1 採用意向についてのアンケート調査の結果

回答件数（合計）	問5 採用意向	問6 採用可能人数
	うち、	うち、
12件	①採用したい 8件 (66.7%)	①1人 1件 (8.3%) ②2人以上 7件 (58.3%)
	②採用を検討したい 3件 (25.0%)	①1人 1件 (8.3%) ②2人以上 2件 (16.7%)